

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

思春期特発性側弯症に対する早期心理的介入が装具療法のアドヒアランスに与える影響

### 2. 研究責任者(当院)

所属：整形外科

氏名：小谷俊明

#### 共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：千葉大学医学部附属病院

代表名：清水啓介

### 3. 分担研究者

所属：整形外科

氏名：小谷俊明、南昌平、佐久間毅、飯島靖、井上翔

### 4. 研究対象者

倫理審査承認後から 2029 年 3 月までに当院側弯症外来を受診した思春期特発性側弯症患者

### 5. 研究の必要性

思春期特発性側弯症（Adolescent Idiopathic Scoliosis: AIS）に対する装具療法は、変形進行の抑制に有効であることが知られているが、その治療効果は患者の装具装着時間（adherence）に強く依存しており、十分な効果が得られない症例も少なくない。思春期は、ボディイメージの変化、対人関係、治療への抵抗感などの心理社会的要因が装具装着行動に影響を与えることが指摘されている。近年、動機づけ面接や認知行動療法的アプローチなどの心理的介入が治療アドヒアランスの改善に寄与することが報告されているが、AIS におけるエビデンスは限られている。当院では、装具療法導入初期に心理的介入を実施しており、その臨床的有用性を検証する必要がある。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

侵襲的な検査や治療は行わず、アンケート形式の平易な質問票を用いた調査を行う。介入も心理的な装具療法ストレスのケアに重きを置いたサポータティブな介入であり、個人のトラウマや過去の体験に触れるような心理療法は行わないため、有害事象等は該当しない。装具ストレスのケアを行うことで装着時間が改善するなど、患者の治療予後を向上させることが期待される。

### 7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151

担当者氏名：小谷俊明

対応時間：8:30-17:00（平日）